

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 30 日現在

機関番号：34319

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22615046

研究課題名（和文） 日本伝統工芸の源流-世界品質を支える道具・素材とその職人たち-

研究課題名（英文） The base of Japanese traditional crafts

-the tools, materials and artisans necessary to support world-class quality-

研究代表者

大野木 啓人 (OONOJI HIROTO)

京都造形芸術大学・芸術学部・教授

研究者番号：50368065

研究成果の概要（和文）：

調査ではまず道具や材料の使い手である工芸技術者（職人）へのヒアリング調査をおこない、工芸の現場における道具と材料の供給状況や、品質の推移、代替品の可能性などについての情報を収集した。その結果で明らかとなった供給不足に陥っている道具および材料 12 品目を選定し、その産地を訪ねて生産者へのインタビューと作業風景の写真・映像撮影を複合的にこなうことによって工程・生産状況の現状を調査した。調査内容は、報告書ならびに映像記録にまとめ、関係者に配布し問題点や対応策を共有した。

研究成果の概要（英文）：

A preliminary questionnaire for artisans was carried out to those who use traditional tools and materials; artisans. This was done in order to research the supply situation, the change in quality, and the possibility of alternatives for traditional Japanese crafts. The result showed that some items were in critically short supply, 12 items of which were selected to the continuous research. A multiple field survey that included the detailed interview to figure out their production situation as well as the photographing and filming of them at work. The results were compiled into a report with an accompanying DVD to distribute to relevant researchers, associations and artisans to share the problems and solutions.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：時限

科研費の分科・細目：デザイン学

キーワード：天然陶石、伊勢型紙、研磨炭、竹箴、庵治石、友禅刷毛、養蚕、浄法寺漆

1. 研究開始当初の背景

本研究は、伝統工芸品の製作に必要な不可欠な道具・材料の生産状況に着目したものである。

華やかな伝統工芸の裏方ともいえる道具・材料の生産を担う職人たちは、その存在はおろか仕事の様子などについてもこれまでほとんど着目されることがなかった。現在、多くの伝統工芸において伝統的な製法の維持が危機にあるが、その要因には道具・材料生産者の減少がある。

本研究では、道具・材料生産者と工芸技術者が互いに要求・影響しあいながら品質を高めるプロセスを「日本のものづくりの特色」と位置づけ、各生産現場での記録調査を中心におこなった。

2. 研究の目的

資源の枯渇や生産者の減少などによって現在、入手が困難となっている伝統的工芸品の材料および道具の生産状況を調査することによって、伝統工芸の保護・継承だけではなく、日本の気候風土や文化的背景に大きく影響を受けて育まれてきた伝統工芸の将来についての対応策を鮮明にすることも目的とした。

3. 研究の方法

(1) 本調査研究では、調査対象となる道具や材料の使い手である伝統工芸従事者に事前アンケートを実施し、現在、工芸の現場ではどのような問題が起きているかをとりまとめた。調査項目は下記の5項目とし、⑤については記述式とした。

- ① 現在、入手困難となっている道具および材料の数
- ② 入手が困難になり始めた時期
- ③ 入手困難となった原因
- ④ 対応策について
- ⑤ 現在の問題

(2) 前項のアンケート結果をもとに、材料の使い手である伝統工芸従事者に対し、電話でのさらなるヒアリング・取材交渉をおこなった。その結果、緊急度や重要性から、調査対象を下記の11項目に絞った。

- ① 天然陶石（上田陶石合資会社）
- ② 伊勢型紙 突彫（木村正明氏）
- ③ 伊勢型紙 錐彫（六谷梅軒氏）
- ④ 伊勢型紙 引彫（内田勲氏）
- ⑤ 伊勢型紙 道具彫（今坂国雄氏・今坂千秋氏）
- ⑥ 研磨炭（木戸口武夫氏）
- ⑦ 竹箴（日本竹箴技術保存研究会）
- ⑧ 庵治石（庵治石開発協同組合）

- ⑨ 養蚕（秋山真和氏）
- ⑩ 浄法寺漆（工藤竹雄氏）
- ⑪ 漆刷毛（田中伸行氏）

(3) 選出した取材対象に対し、電話での聞き取りや面談等を重ねるとともに、文献などから類似した状況の生産者の状況等を調査するなど入念な事前調査をおこなった。

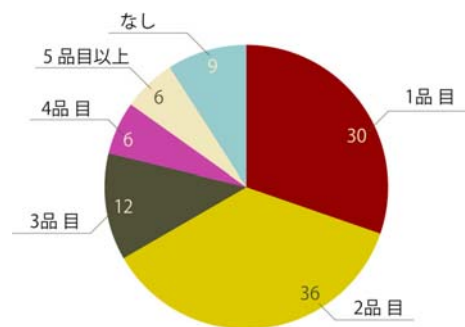
(4) 実際の取材調査については、それぞれの工芸職人と作業時期や日数等を調整し、以下の3手法でおこない、衰退の危機にある道具・材料生産の様子を複合的に記録した。

- ① インタビュー
- ② 作業風景の写真撮影
- ③ 作業風景の映像撮影

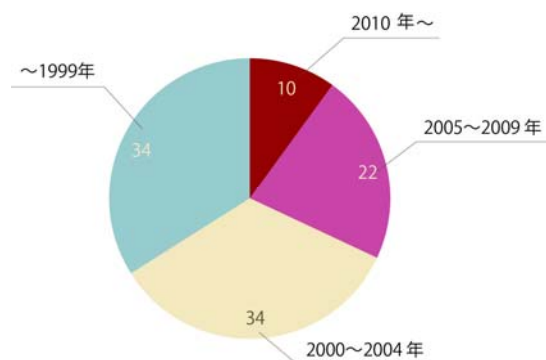
4. 研究成果

(1) 道具や材料の使い手である伝統工芸従事者を対象におこなった事前アンケートの結果は下記の通りとなった。

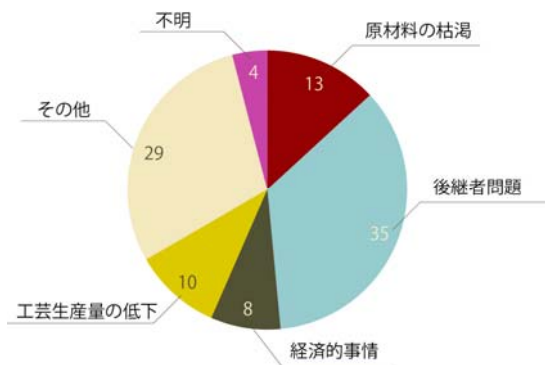
Q.1 現在、入手が困難となっている道具および材料はいくつありますか？



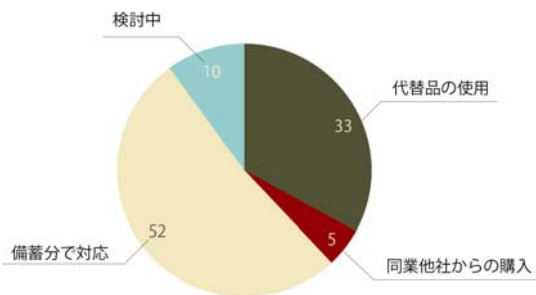
Q.2 入手が困難になり始めたのはいつ頃からですか？



Q.3 入手が困難となった原因



Q.4 対応策について



Q.5 現在の問題（一部抜粋）

- ・ 良質な材料の減少や、それによる価格高騰
- ・ 輸入品が多いため、価格高騰や条約の規制が影響
- ・ 業者の廃業
- ・ 原材料不足による価格高騰
- ・ 水質汚染など環境汚染による品質低下
- ・ 生産者の高齢化・後継者不足
- ・ 需要低下による製造中止や価格高騰
- ・ 代替品の品質への不安

上記の結果および記述回答により多くの道具・材料が2000年ころから材料の減少・枯渇による価格の高騰などから入手が困難となっていることが分かった。また、高齢化・後継者不足により職人が廃業し、入手不可能になったものもあることがわかった。代替品として、安価な輸入品や別素材の製品を検討しているところもあるが、品質に不安があるものも多いようである。

(2) 事前アンケートを基に、詳細なヒアリング調査を実施したところ、現在直面している問題は大きく分けて需要低下、後継者問題、原

材料不足の3点が挙げられることがわかった。これらは、ほとんどの場合、成果物である伝統工芸品の「生産量減少」と「低価格化による製作費削減」が招いた経済的事情に起因している。

手仕事の連鎖において川上である道具や材料の危機は、すでにあらゆる工芸品製作の現場に大きな影響を及ぼしている。生産量低下や原材料不足に伴う価格高騰なども切迫した問題だが、すでに生産者がいなくなり代替品すら存在しないものについては、その工芸品の存続すら危ぶまれている。

工芸の道具や材料は流通経路が特殊なため、使い手である工芸の職人たちであっても、その生産が危機にある現状を把握できないこともある。また、その多くが消耗品であることから数ヶ月～数年に一度まとめて仕入れをおこなう例が多く、安定供給についての課題が業界で問題視されるのは後継者が途絶えてから数年後ということもめずらしくはないことが判明した。

道具や材料はあまりに限定的なその用途から、本来の需要減少に対応して技術の転用や販路開拓をおこなうことが難しい。1990年代以降には海外で生産された安価な代替品が使用されている業界も多く、国内で生産されている道具や材料は品質面でしか競争力を保つことができない状況が続いている。

さらに、道具や材料の生産に必要な「原材料」を製造する手仕事があることも理解しておく必要があることが分かった。

(3) それぞれの取材対象者に対し、おこなったインタビュー・写真撮影・映像撮影の結果を編集し報告書としてまとめた。華やかな伝統工芸の裏方ともいえる道具・材料の生産を担う職人たちは、その存在はおろか仕事の様子についても着目されることがなかった。また、急速に増え続ける職人の高齢化や後継者不足による廃業が続いており、本調査によって、それぞれの生産状況や技法・原材料の調達についての詳細を記録することができたことは、日本の工芸史における大きな成果である。この報告書は、伝統工芸従事者が抱えている問題を共有し解決策を検討するため、伝統工芸従事者だけでなく、業界団体および自治体などに配布した。

(4) 調査の結果、対応策として各関係者に対し、下記のような提言をおこなった。

伝統工芸品の道具と材料を次世代へとつなぐための端的な解決策としては、職人有志グループによる一括購入や、補助金等をはじめとする経済的支援がある。一部の業界団体や自治体などはすでに取り組みを始めているがすべての品目に対応することは難しく、またすでに高齢となっている生産者にとっては、

一時的な経済援助が後継者育成や原材料確保などの根本的解決へと結びつくまでにはいたっていない。

細分化された手仕事による分業体制で成立している日本の伝統工芸においてすべての道具と材料を伝統的なもので揃えれば、近代化された工業品に対して価格競争力を維持することはできない。しかし、ひきかえに品質面においては他の追随を許さないほどの魅力を発揮する。

今後は、伝統工芸品の原材料表記の徹底や流通価格の見直し、工芸品を構成するあらゆる手仕事についての周知などを軸として、業界関係者や消費者の意識を高めることこそが、工芸文化の裏方を支える一助になると考える。

また、本調査の成果を足がかりにして、今後も伝統工芸についてより深く、包括的に取材調査をおこなう予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[その他]

①大野木啓人、他、京都造形芸術大学、日本の伝統工芸の源流-世界品質を支える道具・素材とその職人達- 報告書、2013、72

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大野木 啓人 (OONOGI HIROTO)
京都造形芸術大学・芸術学部・教授
研究者番号：50368065

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし